



「つながる思い まちの絆」

# ふるさとだより

2013年

1

月号  
No.20

久之浜・大久、四倉、平、小名浜、勿来

## 久之浜・大久

有志による勉強会「久之浜ワークショップ」の結果  
「高齢者ふれあいの集い」など公民館での催し

## 四倉

サンシャインマラソンに参加する四倉のランナーたち  
津波に耐えた本多商事の社

## 平

“とよま絆号”が本格始動  
海から日の出を臨む宿「民宿玉屋二見ヶ浦館」

## 小名浜

いわきの海岸復元プロジェクト いわき地域環境科学会  
カジキ料理をいわきから発信 「名代カジキ屋」

## 勿来

「なこそ復興プロジェクト」の活動  
勿來の年明け(お正月特集)

【写真背景】豊間海岸の初日の出



1月1日、多くの参拝客で賑わいを見せた、勿来町窪田にある國魂神社。境内に鐘楼(しょうろう)があることでも有名な同神社では、参拝に訪れた親子が鐘を打つ姿も見られました。



12月初旬、「よいしょ! よいしょ!」の掛け声に合わせて、千本ぎねでもちをつく四倉第一幼稚園の園児たち。つきたてのもちはきなこ、あんこ、納豆で味つけしたり、雑煮に入れたりして、みんなで食べました。



平成25年、元旦の波立海岸。帯状の雲が広がる水平線上に美しい太陽が昇りました。手を合わせる人、柏手を打つ人、写真を撮る人。多くの人が様々な思いを胸に初日の出を見つめたことでしょう。そして聞こえて来た「頑張るぞ！」の威勢の良い声。

頑張りましょう、皆で力を合わせて復興に向けて。

## 未来へ、そして夢のある久之浜・大久へ向けて 学生・建築家・有志による活動

**未来へ、そして夢のある久之浜・大久へ向けて**  
学生・建築家・有志による活動



海岸堤防で協議をする勉強会のメンバー。右が久之浜の遠藤諭さん

浜風商店街の「復興情報館 ふれあいブース」に展示されている震災前の久之浜の模型。その模型を作成した東京の学生・建築家によるグループに、久之浜・大久自安我楽継承会などで活動する地元の遠藤諭さん、久之浜・大久地区復興支援チーム結びで活動する小澤洋平さんらが加わり、久之浜・大久地区の未来を考える勉強会を開いています。

東京からメンバーも久之浜に足を運び、実際に町ながや海岸線を見て歩き、地盤沈下による高低差の確認のため測量をするなど活動を重ねてきました。



↑奉奠祭でのワークショップの様子  
←のぞき窓の先には久之浜海岸の防災緑地に対する4つの案がイラストで示されています

**奉奠祭会場で久之浜ワークショップの開催**

10月20日、奉奠祭花火大会の際には会場にブースを設けワークショップを開催しました。〈おもひでカフェ〉のコーナーでは、参加者が久之浜の白地図を囲み、自家の位置や思い出の場所を書き上げ、地図上にマークしました。

（ひさの浜、どんな浜？）と名付けられたコーナーでは、沿岸部の防災緑地に対し、4つの案が示されました。A案・まちのデッキ／緑地を桜の木を植えたデッキとし、浜と一緒につながった施設の提案。B案・はまの岩屋／商業を兼ねた施設が一体となった公園の提案。C案・ハマエンドウの丘／緑地帯に緩やかな丘とハマエンドウを群生させた場を提案。D案・竹の森／バイオ燃料資源となる竹を群生させ防潮林を兼ねた緑地を提案。ブースを訪れた人が、おのの自分が気に入った久之浜の海岸の復興イメージ案に投票していました。

付けられたコーナーでは、沿岸部の防災緑地に対し、4つの案が示されました。A案・まちのデッキ／緑地を桜の木を植えたデッキとし、浜と一緒につながった施設の提案。B案・はまの岩屋／商業を兼ねた施設が一体となつた公園の提案。C案・ハマエンドウの丘／緑地帯に緩やかな丘とハマエンドウを群生させた場を提案。D案・竹の森／バイオ燃料資源となる竹を群生させ防潮林を兼ねた緑地を提案。ブースを訪れた人が、おのの自分が気に入った久之浜の海岸の復興イメージ案に投票していました。

「将来まちがどうなるのか想像し、今何をすべきかを考えることはとても重要なことです。今後も地域のみなさんとの活動を続けていきた」と基さん。12月23、24日、そして1月14日、メンバーの栗田さんらが久之浜を訪れ、活動状況報告と新たな久之浜の模型製作が行われました。勉強会では、今後も多くの人を交えての座談会やワークショップを開く予定です。



**区長に聞く**  
西町1区長  
**木田 寿夫さん**



西町1区の区長となる3年目。震災の際、久之浜中学校そして内郷の御厨小学校の体育館に避難中、全国から多くの支援をいただき本当に助かりました。特に石川町の素早い行動には心から感謝しています。

西町1区は被害も比較的少なく、現在世帯数は222。避難先より全員帰宅すれば約250世帯になります。

より住みやすい環境を整えるべく、役員はじめ地区のみなさんと協力合い、明るく安心して住めるまちづくりに前向きに取り組んでいきたいですね。

## 東京での展示会とワークショップの結果

所を書き上げ、地図上にマークしました。

寒さに、風に負けない！元気な久之浜の子どもたち

## 第一幼稚園生活発表会

12月9日、久之浜第一幼稚園と平第一幼稚園合同の生活発表会が平第一幼稚園で開かれました。園児総数287名が3部に分かれて発表。最後に披露されたのが年長さくら組による劇。終演後の園児たちの満足気な表情と、指導したさくら組担任の先生の目に光る涙が印象的でした。



### 第22回浜つ子大会

「冬の寒さに負けず、元気にからだを動かそう！」12月2日、久之浜一小で「第22回浜つ子大会」が開かれました。小二小の児童らが5組に分かれ校庭そして体育館で様々なゲームや競技を元気に行いました。

### 第一小学校持久走記録会

12月8日、久之浜保育所で保育発表会が開かれました。「この1年で大きく成長した姿を見てほしい」と大平智恵美所長。劇、お遊戯、そしてダンスなどが披露されました。12月12日、久之浜第一小学校で持久走記録会が開かれました。1年生女子から学年男女別に行われた記録会。児童たちは校庭を1周半駆け抜けた後、元気にコースに飛び出していました。沿道には父母や近所の方も顔を見せ、寒空の下、懸命に走る児童に温かな声援を送り続けていました。

### 久之浜保育所保育発表会

12月12日、久之浜第一小学校で持久走記録会が開かれました。1年生女子から学年男女別に行われた記録会。児童たちは校庭を1周半駆け抜けた後、元気にコースに飛び出していました。沿道には父母や近所の方も顔を見せ、寒空の下、懸命に走る児童に温かな声援を送り続けっていました。

### 第一小学校持久走記録会

12月12日、久之浜第一小学校で持久走記録会が開かれました。1年生女子から学年男女別に行われた記録会。児童たちは校庭を1周半駆け抜けた後、元気にコースに飛び出していました。沿道には父母や近所の方も顔を見せ、寒空の下、懸命に走る児童に温かな声援を送り続けっていました。



## 久之浜・大久の みなさんへ

石川町中谷地区まちづくり委員会  
委員長 水野勝男さん

石川町には樹齢500年とも伝わる、立派な高田桜があります。雪の被害で折れた枝の一部を接木し、子孫を殖やしながら育てている相楽博正さんから苗木を提供してもらい、昨年12月15日、久之浜・大久地区の2ヵ所で植樹が行われました。今年の春も植樹を行う予定です。

桜は毎年同じ時期にきれいな花を咲かせます。どんなに厳しい環境の中でも、土地にしっかりと根付いて、咲き続けます。人も同じなのではないでしょうか。土地に根付く桜、そしてその土地に住む人間。自然の恵みに感謝しながら共に生きていきましょう。

久之浜の方々の前向きで温かな人柄にはお会いするたびに敬服いたします。5年前、古内の桜祭りから始まった久之浜・大久地区との交流。昨年には、育成会、第一小の児童など子どもたちとの交流も始まりました。桜の樹が大きく育ち、花が咲き続けるのと同じように、未永く交流が続くことを願っています。

昨年に続き浜風商店街で行われた餅つき。15名が久之浜を訪れ餅を振舞いました

「繋ぐ・伝える・続ける」をモットーに活動する有志の会のメンバーたち



「また来るのよ!」「はい。必ず来ます!」久之浜を後にするメンバーの乗った車が、見えなくなまるまで手を振り続ける浜風商店街の皆さん。寒空の下、つきたてのお餅のようにほんわかと心温まる思いの師走の風景でした。

## 久之浜地区放射線量測定記録 (各区代表ポイント)

- 測定日:平成24年12月25日 ●天候:晴れ
- 測定者:久之浜・大久地区復興対策協議会 安全専門部会
- 測定器:日立アロカメディカル製 TCS-172(シンチレーションサーベイメーター)

測定ポイント	地上 1cm	地上 100cm
田之綱(田之綱集会所)	0.28	0.26
南町(旧道沿い中央部)	0.28	0.26
中町(旧道高木屋旅館付近)	0.11	0.11
北町(久之浜駅前)	0.17	0.21
東町(旧久之浜漁協前)	0.12	0.11
西町1区(西町公園付近)	0.17	0.17
西町2区(久之浜第一小正門付近)	0.22	0.22
金ヶ沢(鹿野付近)	0.25	0.25
末続(末続駅前)	0.26	0.25
大久(大久公民館付近)	0.21	0.20
筒木原(久之浜第二小西門付近)	0.17	0.14
小久(町田橋付近)	0.19	0.20
小山田(小山田集会所付近)	0.19	0.21

単位はすべてμsv/h

※(株)東北イノベーターのHP  
<http://www.thkinnovator.co.jp/> で  
より詳しい放射線情報をご覧いただけます。

## 復興への動き

### 復興事業計画説明会

12月13日、久之浜・大久地区を対象にした津波避難のための地区懇談会が開催されました。地区復興対策協議会役員、浜地区を対象にした津波避難のための地区懇談会が開業計画に関する説明会が開かれました。

11月21日の田之綱での懇談会に続き、12月21日、久之浜地区を対象にした津波避難のための地区懇談会が開かれました。町内各区長や復興対策協議会役員など20名が委員となり、小久川を境に久之浜市街地を南北に分け、協議が行われました。一昨年、津波発生における避難場所や避難経路等を地図と照らし合わせながら確認。出席者が避難の障害となる点施設(津波避難ビル)なる場所など問題点を指摘。建設に向けたスケジュールなどを一緒に見て検討についての説明。市建設課からは、支所と公民館を解体し合築される防災拠点施設(津波避難ビル)なる場所など問題点を指摘。建設に向けたスケジュールを策定する予定です。

### 企業人ボラ・バス有志の会 「今年も來ました!」

## 浜風商店街から

12月9日、浜風商店街を訪れた人に、つきたての餅を振舞うグ

ループの姿が見られました。震災後、ボランティアバスツアードラムを訪れて知り合い、がれき撤去などを一緒に行つてきた有志の皆さん。昨年3月11日の花供養の際にも久之浜を訪れた代表の要川憲彦さんは福井から、そして神奈川、東京、山形からメンバーが白や杵などを持ち寄つて久之浜に集まりました。

## 様々な思いを胸に 久之浜公民館での催し



久之浜公民館

様々な出演者が、それぞれの思いを胸に公民館のステージに立ち、来場者から惜しみない拍手が送られました。

11月30日には、「高齢者ふれあいの集い」が開かれました。市保健福祉センターの指導保健師・草野早苗さんによる講話。その後、様々なサークルによる歌と踊りのふれあいタイムを楽しみました。用意されたお弁当と一緒に食べ、昔話に会する催しが久之浜公民館で行われました。地元久之浜を離れて、生活している高齢者の方々が一同に会する催しが久之浜公民館で行われました。



高齢者ふれあいの集いのひとこま。社会福祉協議会、久之浜・大久地区協議会の飯島香織会長も国定忠治に扮して出演

## 第4回サンシャインマラソン開催

2月10日に行われる「日本の復興を『いわき』から、復興元年第4回いわきサンシャインマラソン」には、過去最高の9,000名を超えるランナーが参加します。四倉地区の参加者のなかから、お二人に話を聞きました。

### 応援してくれる沿道のみなさんに力走で応えたい

門馬一三さん  
かずみ



「今年は完走と自己ベスト更新を目指します」と門馬さん

上仁井田の門馬一三さんは第1回大会から参加しています。

「いわき出身の柏原竜二選手が箱根駅伝で活躍する姿を見て、かつこいいなと思っていたんです。同じ頃、仕事で得意先を回っていて、日本陸連公認のフルマラソンの大会が開催されることを知りました」。

初めてのフルマラソンは、本当にゴールにたどり着けるのかと思うくらい疲労困憊で、「仕事も忙しくて大変だけど、マラソンのほうがずっと辛かった」と苦笑い。しかし、完走した満足感が忘れられず、また走りたくなったそうです。

昨年の大会では、海岸沿いのコースの一部には被災したままの場所もあり、風景を見ながら走っていると涙が出そうになりましたが、沿道からの「来てくださいがどう」という言葉が胸にしました。

### 子どもたちに頑張っている姿を見せたい

今野智功さん  
ともり



「マラソンの達成感は病みつきになります」と話す今野さん

マラソンで自己ベストのタイムを出して、上り調子の門馬さん。「昨年は途中棄権してしまったことに悔しかった。今年は4時間を切ることが目標です」。声援を送ってくれるみなさん感謝の気持ちを込めて、ゴールを目指します。

小学校でも徒競走の練習などで児童たちと一緒に校庭を走っている今野さんは、頑張りに対する結果が分かりやすく、練習した分だけ結果に返ってくるのがマラソンの魅力だと感じています。

第4回大会を控えて、「自己ベスト更新を目指しますが、自分のペースで欲張らず走りたい。もともと走るのが得意ではない私でも完走している人は何歳になっても成長できるんだということを、子どもたちに教えてあげたいですね」と意気込んでいます。

## —津波に耐えた本多商事の社—

四倉海岸に面した本多商事の敷地の片隅に、木製の社が鎮座しています。津波で工場や事務所に大きな被害が出たものの、社は海側の壁面が少し壊れた程度で、流失を免れました。

「創業者の祖父が祀つたもので、昭和50年代はじめにはあつたと思います」と本多忠和社長は振り返ります。



津波に耐えた社は、今日も本多さんたちを見守っています

うになつたそうです。  
「この社のご利益もあつたのかもしれません。これからはきちんと手入れをして、大切にしたいと思います」。



たんぽぽ組の初めての劇「おおかみと7ひきのこやぎ」



「あわてんぼうのサンタクロース」を合奏するもも組

## 第一幼稚園で生活発表会 みんな上手にできました！

四倉第一幼稚園の生活発表会は12月2日、四倉小学校の体育館で開かれました。

55名の園児たちは、年少のたんぽぽ組、年中のもも組、年長のばら組に分かれてダンスや歌、合奏、劇などを披露。一生懸命に発表する園児たちに、会場を訪れた保護者から温かい拍手が送されました。



元気いっぱいに「スマイル」を歌うばら組

# 四倉地区の今後について――

## 津波被災地の復興に向けた検討会開催

県と市の担当者から、四倉の復興に向けた課題に対する検討状況の説明がありました。

境川から四倉中学校南側までの海岸堤防や、その背後の防災緑地は、現在の海岸堤防よりも海側に整備する予定です（本紙19号参照）。

漁港部の堤防整備は、境川より南側に設置する堤防と連続した位置で、漁港内への整備を検討中です。詳細な設置場所や堤防の内外を行き来する方法は、今年度末までに検討する予定です。海岸堤防の高さは、いずれの箇所も海拔7・2mで整備します。

道の駅よつくら港恒例の地利活用は、現在、暫定的な盛り土となっていますが、一部被災した駐車場など周辺環境の整備も検討する予定です。

境川の水門は、海岸堤防と漁港部堤防の延長線上での整備を検討し、都市計画道路の上仁井田戸田線の整備は、今後地元のみなさんの意見を踏まえ検討していきます。東3丁目地内の避難路としての道路整備は、地権者から用地と工事の同意を得たため、平成25年度から事業に着手する予定

です。津波避難路は、地区懇談会を開催して、住民のみなさんと避難経路や避難場所について議論していきます。

出席者からは「駐車場から海水浴場に行き来する方法を考え欲しい」などの要望が出されました。

## 四倉地区の除染に係る説明会開催

市では四倉町全域を対象とし、①住宅敷地・建物②住居隣接森林③住居隣接農地の除染を行います。

除染にあたっては、毎時0・23μSv以上を基準とし、放射線量に応じて、敷地全体除染または局所除染を行います。主な除染内容として、①は5cm程度の表土入れ替え、庭木の枝打ちなど。②は住宅敷地境界から概ね20mの範囲で、落葉除去・除草。必要に応じて針葉樹の枝打ち。③は住宅敷地境界から概ね20mの範囲を含む農地で、未耕作地は4cm程度の表土入れ替えと除草。

除染目標は、放射線量を毎時0・23μSv未満とするこ

とで、除染方法などを検討の上、長期的に実現を目指します。

除染により発生した土・草などは、大型土のう袋に入れ、仮置場に順次搬入しますが、仮置場が整備されるまでは、敷地内などで一時的に保管する場合があります。

今後居住者・所有者のみなさまから除染に係る同意書を取得して、各世帯の複数箇所で放射線量を測定し、その結果などから除染方法を決め、世帯ごとに個別説明を行つたうえで、除染を実施します。



ちゃんこ鍋に舌鼓を打つ来場者を前に、激励のメッセージを送る小錦さん



仲町商栄会の暮市でのもちつき会。道行くみなさんにもちを配りました(12月26日)



道の駅のキッズランドでは昔遊びが体験でき、凧づくりが人気でした(1月2日)

**点描・年末年始**

道の駅よつくら港恒例のよかつべ市が12月15・16日に開かれました。正月用品などを買いためる来館者でにぎわったほか、15日には元大関の小錦八十吉さんらが、いわきの野菜を使つた塩ちゃんこ鍋を振る舞いました。

年の瀬、正月の準備に追われる街角、新年を迎えた観光スポットなど、四倉地区の年末年始の風景を写真で振り返りました。

平成25年がみなさんにとつて幸多き1年になりますよう

## 今日も元気に営業中!

### ジェラート航 (kou)

「身近なアイスクリーム屋さん」を目指しています。ジェラート（シングル250円・ダブル380円）はチョコチップや抹茶など10種類で、バニラが一番人気です。新しく加わった小倉もぜひどうぞ。ソフトクリームもおすすめです。（スタッフの佐藤玲帆さん）



### 海カフェ

パンは常時15種類ほどで、ミニバスクエット、チャパタ、ドイツ系のメアコーンもあります。リブサンド(350円)、ハムサンド(300円)などのほかに、12月からパンとスープ、サラダが楽しめるスープセット(480円)が登場しました。（スタッフの國玉佳子さん）



四倉公民館のもちつき会には、たくさんの子どもたちが参加しました(12月27日)

# 「どよま絆号」いよいよ出発! サポートセンターで相談業務も

ふるさと豊間復興協議会(鈴木徳夫会長)が開設した「生活再建サポートセンター」が1月からいよいよ本格運用となりました。それに伴い、車で住民の避難先を巡回する豊間区移動連絡所「どよま絆号」も出発。地元での生活再建を目指して、きめ細かな対応で地域の絆をつなぎ、長引く避難生活を支えていきます。

## 地域のきずなをつなぎたい

サポートセンターの建物の完成後、協議会はNPO法人美しい街住まい俱楽部をはじめとする各種団体と相談業務の体制づくりを行ってきました。1月9日を皮切りに週2日ずつ、生活再建や健康・福祉、まちづくりにかかわるさ

まざまな相談を受け付けています。

車による巡回相談は1月5日にスタートしました。同日朝、サポートセンター前で行われた出発式では鈴木会長が「念願かなつてようやく出発となつた。事故のないようがんばろう」と激励しました。

## 戻りたい思いを支えていく

この日、絆号には協議会事務



1月5日、雇用促進住宅の集会所で行った巡回相談



サポートセンター前で行われた絆号の出発式

局の渡邊博之さん、馬目孝志さんが乗り込み、内郷の雇用促進住宅へ。車の上部に取り付けたスピーカーで「豊間のみなさん、豊間区移動連絡所です」と呼びかけました。

アナウンスを聞いて集会所に集まった地区民は10名ほど。図面を見ながら防災緑地の高さや復興方針について質問し、理解を深めました。「われわれ高齢者には残された時間が少ない。早く災害公営住宅に入り、豊間に戻りたい」という声には皆が同感。自身も避難生活を送る渡邊さんも大きくなり、豊間に戻りたい」といった意見が寄せられました。

巡回場所は①いわき内郷雇用促進住宅、②平沼ノ内雇用促進住宅、③中央台高久第一応急仮設住宅、④常磐雇用促進住宅、⑤磐城雇用促進住宅の5カ所。各場所を1日交代で巡回します。開設時間は10時～15時。

サポートセンターや絆号の運行予定は協議会発行の「ふるさと豊間だより」に掲載しています。



## 小・中合同で避難訓練実施 地震発生で成果を生かす

小・中合同の避難訓練が12月6日に行われました。本年度3回目となった今回は地震発生後、校庭に集合。その後、津波を警戒し、上・下級生がペアを組み、校舎3階に避難しました。

水谷大校長がきく(聴く)ことの大切さを説き「目と心で見て助かる」「もっと多くの人が工夫してみては」といった意見が寄せられました。

巡回場所は①いわき内郷雇用促進住宅、②平沼ノ内雇用促進住宅、③中央台高久第一応急仮設住宅、④常磐雇用促進住宅、⑤磐城雇用促進住宅の5カ所。各場所を1日交代で巡回します。開設時間は10時～15時。

6日は小・中学生がペアを組み、手をつないで3階に避難が確認されるのを待って午後7時半ごろ下校しました。保護者には状況を電子メールで伝え、毛布、水など災害時の備蓄品を点検するなど震災の経験を生かし、徹底した安全管理を行いました。



6日は小・中学生がペアを組み、手をつないで3階に避難

## 「姫花ちゃんのハンカチ」義援金に 鈴木さん市に25万円寄付

鈴木さんは震災で長女姫花さん(当時10歳)を亡くしました。そのあと、京都のデザイナー竹内明二さんとの出会いをきっかけに、姫花さんの絵でハンカチを作成。昨年6月から、灯台下の売店「山六観光」で販売し、この益金を義援金として送る活動を始めました。

今回はハンカチ千枚分の収益25万円を半額ずつ、市義援金と震災遺児激励基金に寄付しました。木さんは「だれかの役に立つことができればと思う。購入してくださる方がいる限り、作り続けていきたい」と話しました。



義援金を届けた鈴木さん一家

平沼ノ内、学習塾経営の起子さん、長男皇成君、丞君が訪れ、渡辺市長に净財を手渡しました。鈴木さんは「だれかの役に立つことができればと思う。購入してくださる方がいる限り、作り続けていきたい」と話しました。た。同日は貴さんと妻、美起子さん、長男皇成君、丞君が訪れ、渡辺市長に净財を手渡しました。鈴木さんは「だれかの役に立つことができればと思う。購入してくださる方がいる限り、作り続けていきたい」と話しました。



二見ヶ浦も見える玉屋二見ヶ浦館の2階宴会場。囲炉裏端で火の番をしながら仕込みに励む関さん

しかし、従業員の関テツ子さん（大久町）やボランティアの7軒の民宿のうち、唯一、再開できたのが同館。建物自体の被害は少なかつたものの、1階部分に土砂が流れ込み、一時は再開をあきらめかけました。

震災前にぎわいとはいかないものの、今年も宿泊客が訪れた。海からの日の出を満喫しまし。

豊間観光組合に所属する計7軒の民宿のうち、唯一、再開できたのが同館。建物自体の被害は少なかつたものの、1階部分に土砂が流れ込み、一時は再開をあきらめかけました。

震災前にぎわいとはいかないものの、今年も宿泊客が訪れた。海からの日の出を満喫しまし。

市内有数の初日の出のスポットでもあった平豊間の「二見ヶ浦館」（オーナー・田辺玉美さん）はあります。

震災前にぎわいとはいかないものの、今年も宿泊客が訪れた。海からの日の出を満喫しまし。

人々が毎日一生懸命片づけをしている姿を見て励まされ、昨年7月に再開しました。

同館は工事関係者ではなく、観光客のみを受け入れています。風評被害で県外からの客足は極端に減り、現在の客数は震災前の3分の1程度。新規の予約が入っても、現地を見て「海に近すぎて怖い」とキャンセルするケースもありました。さらには数年後には防災緑地が建設される計画となつており、先の見通しがつかない状況。

それでも、田辺さんが民宿を続けるのは、思い入れのあるこの場所を守りたいから。観光組合の存続について話し合いが行われたとき、仲間から言われた「いざれ皆が帰ってきて民宿を再開するまで、豊間観光組合の名前を守つてほしい」という言葉も胸に残っています。ふるさとにつけてのぎわいが戻つてくる日を信じて民宿を開け続けます。

# 海からの日の出を臨む宿

## 豊間で唯一無事だった民宿玉屋二見ヶ浦館

### 今江選手と交流 ロッテ

と交流しました。  
とともに、社会貢献活動に積極的だったという今江選手。球団職員で平薄磯出身の鈴木律子さんが地元との縁をつないで、昨年に続き2回目の交

晃選手（29歳・千葉ロッテマリーンズ）が12月10日、豊間小、中学校を訪れ、子どもたち

豊間小児童とはワントゥアウト交代のミニ試合を実施し、子どもたちはプロのプレーに歓声をあげていました。今江選手は来シーズンでの活躍を誓つて一人ひとりと握手を交わしていました。

千葉県のボランティア団体「NPO法人パワー・オブ・ジャパン」（神田望美代表）のクリスマスイベントが

### P.O.J 三千個のプレゼント

昨年12月22日、豊間小学校体育館で行われました。



子どもたちと一緒に応援する今江選手

豊間小児童とはワントゥアウト交代のミニ試合を実施し、子どもたちはプロのプレーに歓声をあげていました。今江選手は来シーズンでの活躍を誓つて一人ひとりと握手を交わしていました。

千葉県のボランティア団体「NPO法人パワー・オブ・ジャパン」（神田望美代表）のクリスマスイベントが

### 新年前にしめなわ取替え



しめなわの取替え作業

お正月を迎えるのを前に年末、各神社で参道の掃除やしめ縄の取替え作業が行わ

れました。

12月28日には平豊間の八坂神社でも。同

神社は住民に「きゅうり天王さま」と親しまれていますが、近隣の住民のほとんどが津波の被害に遭い、夏の例大祭も震災以後、途絶えました。

氏子の四家武宣さんは「昨年以上のよい年になり、1日も早く復興し、家が建てられるようになつてほしい」と新年への思いを話しました。

れました。

12月28日には平豊間の八坂神社でも。同

神社は住民に「きゅうり天王さま」と親しまれていますが、近隣の住民のほとんどが津

波の被害に遭い、夏の例大祭も震災以後、途絶えました。

この寄付金で地域の人々の心を明るく

しよう」とイルミネーションを設置。病院内と玄関の2カ所に飾られ、訪れる人の心を和ませました。1月半ばで終了しましたが、来年以降も飾られる予定。

12月28日には平豊間の八坂神社でも。同

神社は住民に「きゅうり天王さま」と親しまれていますが、近隣の住民のほとんどが津

波の被害に遭い、夏の例大祭も震災以後、途絶えました。

この寄付金で地域の人々の心を明るく

しよう」とイルミネーションを設置。病院内

と玄関の2カ所に飾られ、訪れる人の心を和ませました。1月半



「天の川」をイメージした明かり

この寄付金で地域の人々の心を明るく

しよう」とイルミネーションを設置。病院内

と玄関の2カ所に飾られ、訪れる人の心を和ませました。1月半

ばで終了しましたが、来年以降も飾られる予定。

この寄付金で地域の人々の心を明るく



磯の観察会の様子。海藻や磯の生き物の観察やカニ釣りなどをし、楽しながら海に触れました

### 永崎海岸から始まった いわき七浜の環境改善

いわき地域環境科学会(橋本孝一会長)は昭和63年に発足し、いわきの環境保全を目的とし、自然観察会や環境研究発表会、いわき地区的な自然景観評価、環境教育などさまざまな活動を行ってきました。平成21、22年度には日本財団の助成を受け、身近な海岸環境の保全・創造をテーマに「永崎海岸浄化プロジェクト」を実施。永崎海岸砂浜の汚染、海浜生物の調査、流入

2河川(大平川、天神前川)の水質調査などに関する実態調査や永崎小学校での環境学習支援、家庭の排水処理の実態調査や地域の水環境に対する住民意識調査を行いました。

23年度は、「いわきの海岸環境復元プロジェクト2011」として、永崎海岸からいわき地区全体の海岸環境を対象に拡大していく予定でしたが、

大震災・原発事故に遭遇し、事業展開が困難な状態に。しかし、一日も早い海岸環境の復元をめざし、日本財団の賛同を得て、大震災後の大震災の状況把握に焦点を合わせての活動に方向転換しました。

### 災害に強いまちづくりと 海岸環境の復元を目指して

震災で海岸環境は大きな被害を受けたため、いち早く実態調査を開始しました。その結果、海岸林が津波抑制に一定の効果が認められたほか、住民へのアンケート及び海岸部の放射能汚染調査の必要性を認識。放射能測定は専門家からアドバイスも受け、デ

24年度には市からの要請もあり、市内海水浴場の再開可否に係る放射線量などの調査を行っています。その結果、安全部の信頼性を高めていきました。

24年度には市から再開されました。主な活動として、小名浜地区復興支援ボランティアセンターに集まるニーズに応え、家屋解体による引越し作業や地域の清掃、オーガニックコットンプロジェクトの手

間すごろく、コンサート鑑賞などが行われました。坂下さんは「実際に現地に訪れてみなければわからないことがたくさんあります。ボランティ

アを通してたくさんの仲間や

地域の人と出会い、人と人とのつながりの大切さ、あたたかさを感じています」と話しました。



永崎小学校での環境学習支援。水質調査やゴミの調査などを行っています

# 子どもたちの笑顔が見える 海岸環境の創造

いわき地域環境科学会



## 人と人とのつながりの大切さとあたたかさ

糸

Kizuna



地元の人たちに少しでも早くきれいな海を見て欲しいと、海岸沿いで流出物の回収、清掃作業を行いました



川口プラスソサエティがボランティアでコンサートを行いました。子どもたちと一緒に歌ったり踊ったり、楽しい時間を過ごしました



物を大切にする心を持つて欲しいと絵本「ちいさなくれよん」を読み聞かせました



埼玉の子どもたちからいわきへ復興の願いを込めたメッセージツリーが贈られました

震災から約2年が経ち、ボランティア活動に参加する人がだんだんと減少しています。そんななか今でも小名浜地区を中心にボランティア活動を続けている「糸」。

12月8日には児童養護施設「いわき育英舎」、22日には

「タウンモールリスト」を開催。8日のイベントは、芝浦工業大学のボランティアサークル「ストラッピース」のメンバーが企画。ドッジボールや人間すごろく、コンサート鑑賞などが行われました。坂下さ

ま

## 初詣

## 新年の無事と平安を祈願

31日の深夜から多くの参拝客が訪れた江名諏訪神社。江名地区の活性化と伝統の継承のため1年を通して活動を行っている「かじの葉会」のメンバーが甘酒を振る舞い、境内は賑わいをみせていました。

午前0時を迎えると、参拝客は1年の無事と平安を祈願。幣殿では歳旦祭の初祈祷が行われ、氏子の方々はお札、絵馬、破魔矢を授与されました。



お兄さんにお参りの仕方を教わりながら、1年の幸せを願いました

10年ほど前から甘酒の振る舞いを行っているかじの葉会。「今年は昨年よりもまちを盛り上げていきたい」と相浦会長



## 中之作の活性化を図る2回目の復興朝市、開催!



正月飾りなども販売されており年の瀬を感じられた朝市↓



↑朝早く寒い中行われたため、揚げたてのメンチの店には行列が!!

## 小名浜トピックス No.9

「カジキメンチ、うまい!」  
カジキ料理をいわきから発信

昨年10月に復興イベントとして行われた「第2回みなどオアシスsea級グルメ全国大会in小名浜」で優勝を果たした、みなどまち創造会議のジャンボカジキメンチカツ。これは震災後にいわき魚類、いわき経済同友会、みなどまち創造会議がいわきの観光・地域経済復興のために共同開発したカジキ料理のひとつ。

Sea級グルメでの優勝を機に、メンバーの一人でもある〈小名浜美食ホテル〉の鈴木泰弘社長が、もっとたくさんの人に知つてもらおうと11月1日に同施設内に「名代カジキ屋」をオープン。事務局の佐川洋一さんは「カジキがいわきの名物になるように、そしていわき復興の力になれるよう頑張りたい」と意気込んでいます。店舗販売は同店のみになります。ギフトセットなども取り扱っています。

## 営業時間

平日／11:00～14:00  
土・日曜・祝日／11:00～17:00  
定休日／小名浜美食ホテルに準じる



直径13cmのジャンボカジキメンチ。店内には鈴木社長が作詞し、スタッフが歌う「カジキメンチ、うまい」が軽快なリズムで流れています

命を守るために

## 避難についての話し合い

津波避難のための懇談会が  
下神白地区に開かれ、各地区

5日（江名・折戸地区）、8日  
12月3日（永崎・中之作地区）、

そのほか、各地区の主な懇談  
内容は以下のとおり。

## 【江名地区】

市の担当者が懇談会の目的や施設整備計画、今後のスケジュールなどを説明し、その後、地区ごとに津波避難の実情や避難のための改善策などについて話し合いました。懇談では、参加者それぞれの震災時における避難経路や手段をあげ、その際に感じた問題点や今後円滑に避難するための課題と改善点・高齢者などへの避難の対応について意見を交わしました。

市役所の担当者が懇談会の目的や施設整備計画、今後のスケジュールなどを説明し、その後、地区ごとに津波避難の実情や避難のための改善策などについて話し合いました。懇談では、参加者それぞれの震災時における避難経路や手段をあげ、その際に感じた問題点や今後円滑に避難するための課題と改善点・高齢者等への避難の対応

【永崎地区】  
● 図上訓練時の避難場所について  
● 設定課題と図上訓練の比較確認  
● 長時間避難の際の課題  
● 高齢者等への避難の対応  
● 津波二次避難の目的地点の追加  
● 避難のために改善すべきポイント  
● 津波二次避難の目的地点の追加  
● 重要課題の選定と対策アイデア  
● 高齢者等への避難の対応  
● 協議会におけるまちづくりへの取り組み

組合(吉田喜昭代表理事  
組合長)の朝市が12月22日、中之作魚市場で開かれました。この朝市は昨年8月に開かれた復興イベ

ントの第2弾で、地元の商店や組合加盟店業者、協力業者が出店。魚介類や海産物、揚げ物、加工品、カジキメンチなどの食料品のほか、クリスマスフラワーやしめ縄などこの時期ならではのものも販売され、同市場はたくさんの人でにぎわっていました。

## まちの話題



## ■中之作地区イベント

中之作地区では2月上旬の3日間、民家の軒先に色とりどりのつるし雛が飾られ町並みが華やぎます。

- 日時 平成25年2月2日(土)～4日(月) 9:00～17:00
- 場所 中之作川岸地区

## ■小名浜地区復興支援ボランティアセンター(NPO法人 ザ・ピープル)移転のお知らせ

被災者向け交流サロン事業やオーガニックコットンプロジェクトなどを行っている同センター、法人が12月22日に移転しました。移転先は以下の通り。

- ◆移転先住所 いわき市小名浜南君ヶ塚14-2  
☎0246-52-2511

## お知らせ

タウンモールリスピオ内にある被災者向け交流サロンでは、たくさんのイベントを開催しています。ぜひご利用ください。



稻垣さんの講演に、真剣な眼差しで耳を傾けるみなさん

**あなたに見てほしい  
被災地の現実**

**なこそその希望ウォーク  
2013**

**開催予告**

被災地の現状をもう1度見直して、防災に対する心構えをみんなで身につけよう!

**開催日:3月10日(日)**  
**場所:勿来市民会館集合**

- ◆5.4kmコース受付／9:00～9:45 勿来市民会館～錦須賀方面
- ◆16kmコース受付／8:00～8:45 勿来市民会館～錦須賀～岩間～小浜～植田方面

参加費:500円  
※参加者は、事前に受付が必要となります。

☎0246-63-5055  
なこそ復興プロジェクト

**スタッフも募集中!**

同会は地区内できまざまな活動を行う一方、昨年7月からは新潟県中越地震で被災したみなさんとの交流を始め、過去3回に渡って新潟県を訪問。うち1回は、小浜や岩間、錦須賀などの住民合わせて21名とともに視察研修も行いました。被災地同士の交流活動と、他地区の防災知識をさらに広めるため、今度は新潟県から8名が来市。12月9日、勿来市民会館で「先例に学ぶ、絆をつ

**分かち合い、絆をつなぐ**

なぐプロジェクト～中越からのメッセージ～」と題した被災地交流会が開かれました。会場には、勿来地区住民、復興プロジェクトのスタッフなど、合わせて約40名が集まりました。事例報告として、新潟県長岡市出身の稻垣文彦さんによる講演が行われ、プロジェクトメンバーを使って中越の被害状況を説明。その後、訪問したみなさんがから自己紹介と震災当時の体験談が語られました。

平成23年6月に発足し、復興に向けた活動を積極的に行っている「なこそ復興プロジェクト」。昨年3月には「なこそその希望『鎮魂際』」を開催し、会場に集まつた大勢の人々がふるさとの復興を願いました。また、東田町には地域住民の集いの場として「なこそ交流スペース」を設置。定期的にさまざまなイベントが実施され、たくさんの方々が利用されています。

# 被災地の明るい未来を目指して

についての意見交換会も実施。互いの気持ちを分かち合いながら絆を深めています。

今回のような活動を行っていき上で、同プロジェクト代表の館敬さんは「震災から2年が経とうとしている今、どこか他人事のようになってしまっている人もいる。そんな中、地域の防災意識をどう残していくかが私たちのテーマ」と今後の目標を話していました。



勿来地区住民  
およそ60名が参加

## 津波避難のための地区懇談会

**12月5日**  
**錦町須賀地区**

**12月10日**  
**関田・九面地区**

昨年12月、第1回津波避難のための地区懇談会が、地域住民を交えて各地で開かれました。

防災のための備蓄倉庫を設置してほしいなどの意見が出されました。

震災時には多くの住民が公民館へ避難したという小浜地区では、公民館の駐車場を広くしてほしいなど

の声があがりました。また、渚地区においては、いきがい村方面への避難についても検討されました。

一方、避難までに時間がかかるった方が多かった岩間地区では、高台へ直接通り道がほしいという声や、

今年、市は、懇談会での意見等を踏まえ、津波避難のための施設整備計画案を作成し、年明け以降に再度、地域住民を交えて2回目の懇談会を開催する予定です。



須賀公民館で行われた、錦町須賀地区懇談会の様子

# 新年あけましておめでとうございます

お正月特集

**今年1年も力強く!  
日の出とともに、袴姿で初稽古**

1月1日、関田須賀集会所前の空き地で勿来剣道スポーツ少年団の初稽古が行われました。

小・中学生の少年団員15名が袴姿で素振りをし、日の出とともに力強く迎



ゆっくりと昇る太陽に照らされながら、寒さに負けず元気に新年を迎きました



大きなかけ声とともに、勇ましく竹刀を振り下ろしていました

田清和団長は「震災に負けず、一致団結して全国に向かって羽ばたいてほしい」と子どもたちへエールを送っています。

同スポーツ少年団の岡

昨年12月26日、いわき市国民宿舎勿来の閑荘で、いわき絵扇の会の鈴木秋夫先生の指導のもと、扇づくり教室が開かれました。地区内に住む子どもたちと、その保護者あわせて15名が参加。持参したマジックなどで思い思いに絵を描き、扇づくりを楽しんでいました。



→世界にひとつ!自分だけの扇が完成しました

←鈴木先生の指導を熱心に聞く、参考したみなさん



→真剣な眼差しで、はがきにそっと筆をのせるみなさん

←完成した作品がホワイトボードに並べられ、講評をする篠田先生

昨年12月14日、東田町の「なこそ交流スペース」で、2回目となる絵手紙教室が開かれました。参加者は、近隣に住む13名の方々。中には前回も参加した方もおり、手馴れた様子で筆を握っていました。持参した人參やピーマンなどの野菜を参考にはがきに絵を描き、それぞれの思いがこもった絵手紙が完成。

「いわき絵手紙の会」の会長も務める、講師の篠田迪子先生は「はがきの中に自分の気持ちをにじませて、大切な人に『私は元気だよ』と伝えてもらいたい」と話しています。この絵手紙教室は、毎月第2金曜日に同スペースで行われます。

**思いをはがきに  
にじませて…**

## 元気いっぱい! なこそびと

何があっても、ふるさとを離れたくない

錦町須賀で事業を始めて51年になる((有)いわき村野建築)。2代目社長の村野光助さんと、妹の美智子さんの2人で経営しています。

震災で事務所や自宅が被害を受け全壊に。自宅の2階は幸い無事だったため、その後1ヶ月ほど生活していましたが、一昨年4月に自宅前に仮事務所を設置。須賀に留まりながら流された工具などをかき集めて店を再開させました。同時に、もとの事務所と自宅の解体作業を開始し、一昨年12月に建て直しが完了。須賀で再スタートを切って、ちょうど1年が過ぎました。

今もまだ、震災の爪痕が多く残る須賀地区ですが「生まれたときから、海と川を見て育ってきた。これからも須賀でがんばっていきたい」と笑顔で話しています。



会社のすぐうしろには、鮫川と大きく広がる勿来の海。その先には、火力発電所の煙突も見えます

## 復興の架け橋 になるよう、願いを込めて…

川部町にある(株)磐城高箸は、創業してわずか7ヵ月後に地震の被害に遭いました。震災の1ヵ月後に、材料となる杉の放射能検査を開始。平成23年6月から製造を再開しましたが、会社を経営する傍ら「被災地が元気になれるよう、自分にもできることはないか」と考えた代表取締役の高橋正行さん。復興の願いを込め、被害の大きかった岩手県の気仙杉、宮城県の栗駒杉、そして福島県の磐城杉を使用した割り箸「希望のかけ箸」を製作しました。「この割り箸が、少しでも復興の力になれば」と前向きに頑張っています。



自慢の割り箸を手にする高橋さん(右端)と従業員のみなさん

### 「希望のかけ箸」525円

※そのうち150円が復興支援金として、50円ずつ三県の各市へ寄付されます。

(株)磐城高箸

☎0246-65-0848



江名・勿来・四倉

## 津波避難訓練アンケート結果Q&A

昨年9月1日防災の日、いわき市沿岸部に大津波警報が発表されたことを想定した津波避難訓練が、四倉地区沿岸部、江名地区及び勿来町閑田・九面地区で実施されました。その際、参加者に配布したアンケート調査の結果をお伝えします。

Q.訓練に参加した人数は?

A.江名:371名、勿来:718名、四倉:1,387名の合計2,476名が参加しました。

Q.アンケートの回答者は?

A.年代別だと、50代以上が80%を占め、60代が最も多い回答をしています。

Q.サインや放送は聞こえたか?

A.「聞こえた」と回答した方が約70%を占める一方、「聞こえない」と回答した方は約3%でした。

Q.近所にいる高齢者への声かけは?

A.声かけをした方は、全体で約40%でした。地区別では、江名地区が約40%を超えており、比較的声かけをしたという割合が高くなっています。

Q.避難経路の問題点は?また、安全に、確実に避難するために必要なことは?

A.「避難経路に問題はない」と回答した方が約70%以上を占める一方、約20%の方は「問題がある」との回答でした。主な回答としては「道路が狭くデコボコ、両側がブロック塀で危険だと感じた」「国道や路線を渡り、遠かった」などの意見が寄せられました。

安全に、確実に避難するために「日ごろからの防災意識の向上」「定期的な訓練を重ねる」など、震災を教訓にした地区的取り組みについても意見が寄せられました。以上の結果をもとに、各地区で地域住民を交えた懇談会が行われました。詳細は本誌P2、P8、P9、をご覧ください。なお、四倉地区につきましては次号掲載します。

## わくわくしごと塾の成果を発表

### わくわくキッズミーティング!

昨年12月22日、「わくわくキッズミーティング2012」が開催されました。これは同年夏に開催された「いわき・わくわく『仕事塾』」に参加した、約60名の小学生による発表会。さまざまなアーティストの協力を得て、参加者の仕事体験をステージで披露しました。

最後に、仕事の楽しさや大変さを発表し、共同作業を振り返りました。

→四倉では漫画家の蛭田充さんが講師を務め、野菜の収穫や大福作りを体験した様子を本格的な描き方で漫画にまとめました



↑小名浜では大漁旗の製作過程のスライドの後、観光地を舞台としたストーリーの絵本を作成、発表しました



## ふるさとからのお知らせ

### 久之浜・大久

#### ●新しい久之浜の歌“たしかなる風”練習日

(2月2日、2月16日、3月2日、3月16日  
13:00～・久之浜一小音楽室)

### 四倉

#### ●第21回四倉地区青少年健全育成推進大会

(1月26日13:00～・四倉公民館)  
△四倉地区的児童、生徒の代表が意見発表をします。

### 平

#### ●ふるさと豊間復興協議会住民ワークショップ提言発表会

〈1月27日14:00～・豊間公民館〉

#### ●相談会(住宅ローン等、生活再建)

〈1月23、24日10:00～15:00・生活再建サポートセンター〉

#### ●相談会(仮設店舗など経営再建等)

〈1月29、30日10:00～15:00・生活再建サポートセンター〉

### 小名浜

#### ●つるし雛

〈2月2日～4日9:00～17:00・中之作川岸地区〉

### 勿来

#### ●なこそ希望ウォーク2013

～あなたに見てほしい被災地の現実～

〈3月10日 受付開始5.4Kmコース9:00

／16Kmコース8:00・勿来市民会館集合〉

△被災地の現状を自分の目でもう一度確認し、地域全体の防災意識を向上させよう!詳しくは本誌のP9をご覧ください。

## ふくしま紙芝居まつり 東北まち物語紙芝居化 100本プロジェクト

広島県のボランティア団体「ボランデポひろしま」などが主催する「ふくしま紙芝居まつり」が、昨年12月9日に東日本国際大学で開催されました。これは、東日本大震災で被災した地域の物語を語り継いでいくというものです。地元住民が作った脚本を紙芝居化し、今回50本を上演しました。

いわき市の復興話では、震災を生き延びた人々に勇気を与えた実話である、豊間中学校で被災したピアノの物語が読まれました。方言やなまりを使つたいわき市らしい語り口調は、観客を惹きつけていました。



同団体では、3年間で東北被災三県の物語を100本、紙芝居化することを目標に活動を続けています。

豊間中学校の被災、復興物語「被災ピアノ物語」を読む佐久間静子さん。参加者のみなさんは、真剣に見入っていました

生活支援相談員からメッセージ

## 今年も笑顔で!

いわきのまちを「笑顔に!」

**ボラセン  
だより**

No.9

震災から2度目の正月を様々な想い

を胸に抱き迎えた方も多いと思います。

今年1年はどんな年になるのだろう。昨年よりは、市も町も自分たちも一歩前に進めるだろうか?不安の中にいる人たちにとって、少しでも「ホッ」と出来る訪問を目指して、私たち生活支援相談員も皆さまと日々笑顔でお会い出来るように顔晴ります。



### プロフィール

氏名 根本 和  
担当地区 勿来  
星座 牡牛座  
血液型 A型

いわき市社会福祉協議会

いわき市復興支援ボランティアセンター

いわき市平字菱川町1番地の3

☎0246-38-6631

<http://iwakisaiagavc.blog.fc2.com/>

携帯電話の方は右記のQRコードからアクセスできます。



ふるさとだよりに情報やご感想をお寄せください!

●メールの方／[furusato@asally.co.jp](mailto:furusato@asally.co.jp)

●携帯電話からのメール

QRコードを読み取ってください。→

●FAXの方／☎0246-26-5157

●おたよりの方／下記編集室まで

いわきあいあいで情報発信中!!

いわきあいあい 検索

Click

### いわき市

## ふるさとだより 第20号

平成25年1月20日発行

●発行：いわき市

●編集：有限会社 いまあじゅ ふるさとだより編集室

●編集室：〒973-8411 福島県いわき市小島町3丁目3-3

プリンセス・アイ1F

Tel & Fax: 0246-26-5157

Mail: [furusato@asally.co.jp](mailto:furusato@asally.co.jp)

<http://www.furusatodayori.com>